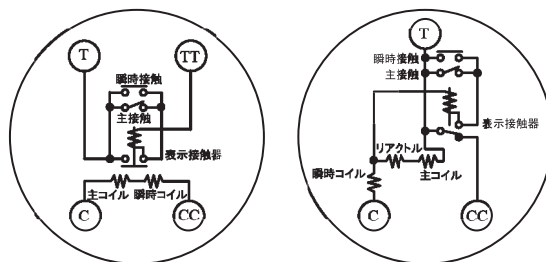
ORT-50MV 操作上のご注意

本器は、低消費電力で試験を行うため、試験出力容量も低電力となっています。弊社製IP－Rシリーズと同じ電流を出力するために、電圧を低く抑えています。3端子(電流引き外し式)OCRと電流引き外し式CBの連動遮断を行う場合は、接点構造切換スイッチの操作がIP－Rシリーズと異なります。

OCR内部結線例

4端子OCR
（電圧引き外し式）

3端子OCR
（電流引き外し式）

4端子(電圧引き外し式)OCRとCB連動試験について

4端子(電圧引き外し式)OCRと電圧引き外し式CBの連動遮断試験については、IP－Rシリーズと同様に接点構造切換スイッチをトリップ側の**「a／b(AUTO)」**に設定して試験を行ってください。

停電試験の場合はCBの同相の一次側と二次側にトリップコードを接続して試験を行ってください。

所内電源で試験を行う場合は、トリップコードを使用せず、トリップ側の**「a／b(AUTO)」**に設定して試験を行ってください。

※4端子(電圧引き外し式)OCRの**単体試験の場合**は、トリップ側の**「a／b(AUTO)」**に設定して試験を行ってください。

●詳しくは、取扱説明書 P.15,24～27,65～112をご参照ください。

重要!
弊社IP－Rシリーズとは操作が異なります。

3端子(電流引き外し式)OCR-CB連動試験について

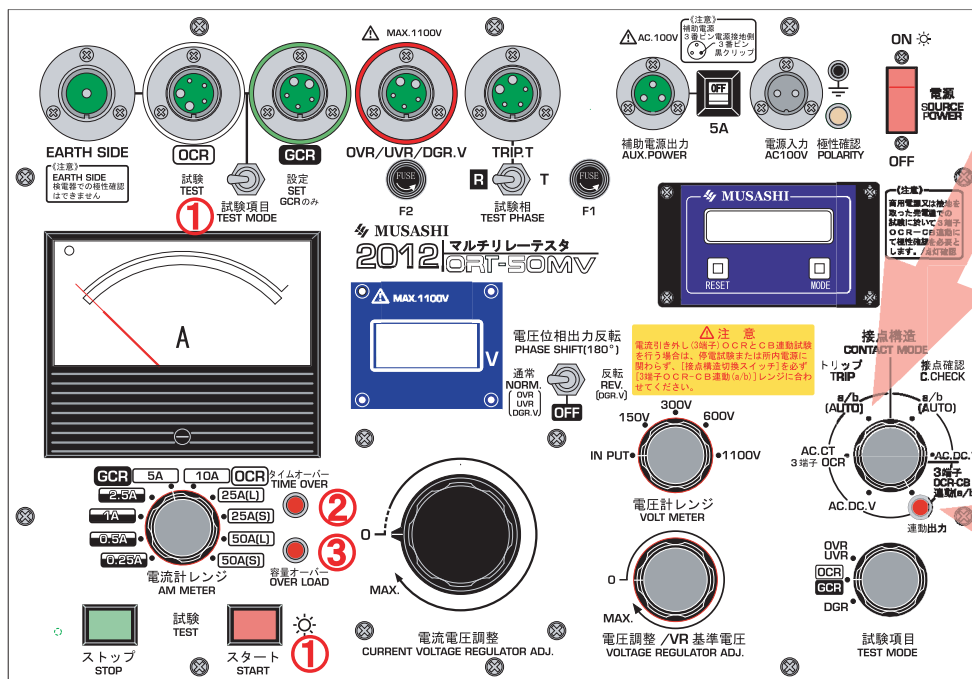
本器は、3端子(電流引き外し式)OCRと電流引き外し式CBの連動遮断試験が900VAの正弦波出力発電機で試験できるよう、特別に出力電流を切換える回路が搭載されています。試験中にこの出力電流切換回路が動作すると、「連動出力」ランプが点灯します。

3端子(電流引き外し式)OCRと電流引き外し式CBの連動遮断試験を行う場合は、接点構造切換スイッチを必ず**「3端子OCR-CB連動(a/b)」**に設定し、停電試験の場合はCBの両端からトリップを検出して試験を行ってください。**所内電源で試験を行う場合は、トリップコードを使用せず**、同様に**「3端子OCR-CB連動(a/b)」**に設定して試験を行ってください。

※**出力電流切換回路動作後2秒以内にCBの動作が検出できない場合は出力を遮断し、「連動出力」ランプが点滅します。**

※3端子(電流引き外し式)OCRの**単体試験の場合**は、接点構造切換スイッチを**「AC. CT　3端子OCR」**に設定して試験を行ってください。

※誘導型で年式の古い3端子(電流引き外し式)OCRやOCRの内部接点の接触抵抗が増加している場合など、**被試験物のインピーダンスが高い場合は電流出力が制限されます。(0.3Ω時MAX50A、0.6Ω時MAX33A)**

●詳しくは、取扱説明書 P.15,24～64をご参照ください。

①試験ランプ　：GCR用電流出力設定用スイッチが「設定」側の場合、電流計レンジ5A～50Aではスタートスイッチを押しても出力せず、試験ランプ(スタートスイッチ)が点滅します。

②タイムオーバーランプ：電流値毎に定められた出力時間を超えると出力を自動遮断し、タイムオーバーランプが点灯します。

③容量オーバーランプ：出力電流が各電流計レンジ値の110%を超えると出力を自動遮断し、容量オーバーランプが点灯します。出力容量を超過した場合は点滅となります。